

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 8 月 2 7 日
Date of Application:

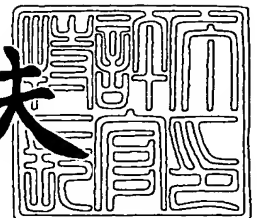
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 2 0 8 9 7 9
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 2 0 8 9 7 9]

出 願 人 イアラ・マーケティング・スペシャリティズ株式会社
Applicant(s):

2 0 0 4 年 2 月 1 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 0 9 1 0 1

【書類名】 特許願

【整理番号】 HP03062

【提出日】 平成15年 8月27日

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

【住所又は居所】 京都府京都市上京区樫木町通堀川東入西山崎町 2 2 2 番
地 イアラ・マーケティング・スペシャリティズ株式会
社内

【氏名】 柳島 邦門

【特許出願人】

【識別番号】 502371602

【氏名又は名称】 イアラ・マーケティング・スペシャリティズ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100087169

【弁理士】

【氏名又は名称】 平崎 彦治

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 068170

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 メガネフレームの鼻当てパット

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 メガネのフロントフレームに取付けられてフロント部を支える為の鼻当てパットにおいて、下端部を背面側へ反らせると共に下端部当り面を滑らかな曲面にて湾曲させたことを特徴とするメガネフレームの鼻当てパット。

【請求項 2】 メガネのフロントフレームに取付けられてフロント部を支える為の鼻当てパットにおいて、鼻当てパットの肉厚を大きくして背面を凹状化し、そして下端部を背面側へ反らせると共に下端部当り面を滑らかな曲面にて湾曲させたことを特徴とするメガネフレームの鼻当てパット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はメガネを顔に掛けた場合に、そのフロント部を鼻に当てて支える為の鼻当てパットに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

図4は一般的なメガネフレームを示す外観図であり、フロントフレーム(イ)の両側にはツル(ロ)、(ロ)が折畳み出来るように取付けられている。そして、フロントフレーム(イ)のリム(ハ)、(ハ)にはレンズが嵌められ、ツル(リ)、(リ)の先端部は耳に掛けられると共に、フロント部はフロントフレーム(イ)の中央部に対を成して取付けられている鼻当てパット(二)、(二)が鼻に当って支持される。

【0003】

鼻当てパット(二)は図5に示すごとく一般に樹脂製で概略小判形を成し、鼻に接する当り面(ホ)は滑らかな曲面となっていて、肌当りを良好ならしめた形状と成っている。そして、肌当りをさらに良くすると共に、メガネを長時間にわたって掛けていても痛みを感じないように、シリコン樹脂製の柔らかい材質を用いることも多い。

【0004】

鼻当てパットの背面側へは止着部(へ)が突出し、この止着部(へ)はフロントフレーム(イ)から延びる脚先端に設けている箱にネジ止めされているが、完全固定状態ではなく、鼻当てパット(ニ)の向きが変わり得るように多少のガタ付き(動き)が与えられていて、個人の鼻形状になじむことが出来る。

【0005】

図6は従来の鼻当てパット(ニ)が鼻(ト)に当って接触している状態を示している。鼻(ト)の形状にも左右されるが、当り面(ホ)の全体が鼻(ト)に接することはなく、同図に示すように鼻当てパット(ニ)の下端部が接する。鼻(ト)の形状は概略二等辺三角形のように下方を拡大している為に、フロント部がズレて下方へ滑る場合には、鼻当てパット(ニ)の向きが変わって比較的大きな接触面となる。しかし、滑り落ちたフロント部を持ち上げて正しい位置に戻す場合、両鼻当てパット(ニ)、(ニ)が接する鼻(ト)の接触面間距離は小さくなる。

【0006】

鼻当てパット(ニ)の向きが同じ傾斜角であるならば鼻(ト)との間に隙間が発生し、フロント部を所定の位置に支えることは出来ない。フロント部が再び滑り落ちることなく所定の位置に保持する為には、鼻当てパット(ニ)の向きを変えなくてはならない。

【0007】

すなわち、同図において鼻当てパット(ニ)を右回り(時計回り)に回転するならば、両接触面間距離が小さくなった鼻(ト)の上部に鼻当てパット(ニ)が接することが出来、そしてフロント部の滑りを防止出来る。ところが、従来の小判形の鼻当てパット(ニ)の当り面(ホ)は滑らかな凸状を成しているが、下端の角部(チ)に接してしまい痛みを感じる。そして、角部(チ)が接することで鼻(ト)との接触面は一段と小さくなり、再び滑り落ち易くなる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

このように、従来の鼻当てパットには上記のごとき問題がある。本発明が解決しようとする課題はこの問題点であって、鼻との接触面が大きくなって滑り難く、また、滑り落ちたフロント部を持ち上げた場合にあっては角部が当って痛みを

感じることはないメガネフレームの鼻当てパットを提供する。

【0009】

【課題を解決する為の手段】

本発明に係る鼻当てパットの特徴は次の通りである。

(1) 従来の鼻当てパットに比較してその形状寸法を大きくし、重量を増している。鼻に接する鼻当てパットを大きくすると共に重くすることで、フロント部を安定して支持することが可能となる。すなわち、顔に掛けたフロント部の落ち着きが向上する。

【0010】

(2) 鼻当てパットの下端部の当り面形状を大きく湾曲し、鼻と接しても角当りしない形状となっている。すなわち、滑り落ちたフロント部を持ち上げる場合、鼻当てパットの向きは変化するが、角当りしないように下端部の当り面は背面側へ反るように湾曲した形状を成している。従って、鼻当てパットの角当りを防止すると共に、鼻との接触面が大きくなることで、フロント部の滑りを防止し、メガネを正しく掛けることが出来る。以下、本発明に係る実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

【0011】

【実施例】

図1はメガネを掛けた状態の正面であり、図2は本発明の鼻当てパットを示す実施例である。従来の鼻当てパットを表している前記図5と比較しても明らかなように、背面1を凹状化すると共に、肉厚を大きくした形状とし、当り面2は大きく湾曲した曲面となっている。特に下端部3は背面側へ反っていて、当り面2もその形状になじんだ湾曲面を呈している。そして、背面側へは止着部4を突出し、この止着部4は従来と同じようにフロントフレームから延びる脚先端の箱に取付けられる。

【0012】

図3は前記図6に相当するもので、鼻5の上下位置での鼻当てパット6の接触状態を示している。概略二等辺三角形をした鼻5の下側に接する場合、すなわち、フロント部が滑り落ちた状態では図1における両接触面間距離Lは拡大される

為に、鼻当てパット 6 は倒れた状態で鼻と接する。すなわち、止着部 4 を中心として反時計方向に回転して比較的大きな接触面を呈し得る。

【0013】

そこで、フロント部を持ち上げて元の位置に戻す場合、両接触面間距離 L は小さくなって、この接触面に鼻当てパット 6 が接する為には時計方向に回転しなくてはならない。そこで、接触面には鼻当てパット 6 の下端部 3 が接することに成るが、本発明では大きく背面側へ反った形状を成して湾曲した当り面 2 となっているために角当りすることはない。しかも、背面側へ反っていることで、下端部 3 での接触面は大きく痛みを感じることもなくなる。以上述べたように、本発明に係るメガネフレームの鼻当てパットは特にその下端部を背面側へ反って当り面を湾曲した形状を成しているもので、次のような効果を得ることが出来る。

【0014】

【発明の効果】

本発明の鼻当てパットはフロント部の位置がどこにあっても鼻との接触面は大きくなり、長時間メガネを掛けても痛みを感じることはなく、また、フロント部は滑り落ち難い。すなわち、鼻当てパットの形状は特に下端部が背面側へ大きく反っていて、下端部での当り面は滑らかに湾曲している為めである。また、鼻当てパットの肉厚を大きくてその重量を増すならば、メガネを掛けた際のフロント部の落ち着きが向上し、良好なフィット感が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

メガネを掛けた場合の正面図。

【図 2】

本発明は鼻当てパットを示す実施例。

【図 3】

鼻の接触位置と鼻当てパットの関係。

【図 4】

一般的なメガネフレーム。

【図 5】

従来の鼻当てパット。

【図 6】

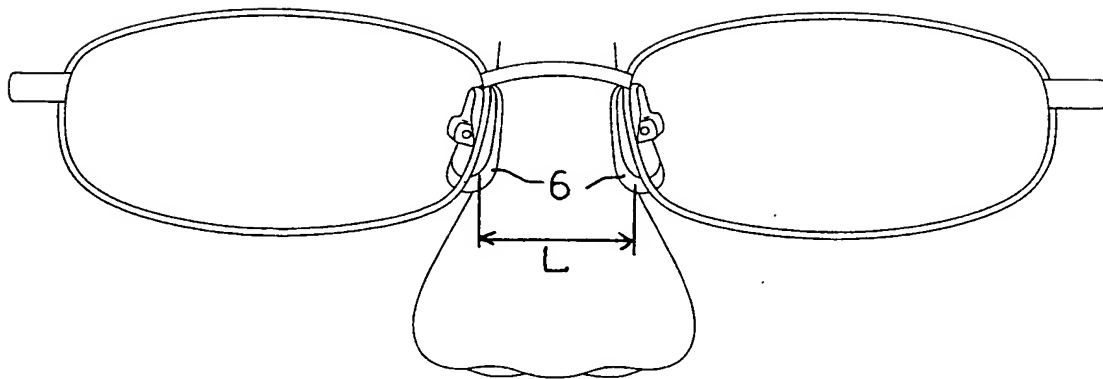
従来の鼻当てパットと鼻の接触位置との関係。

【符号の説明】

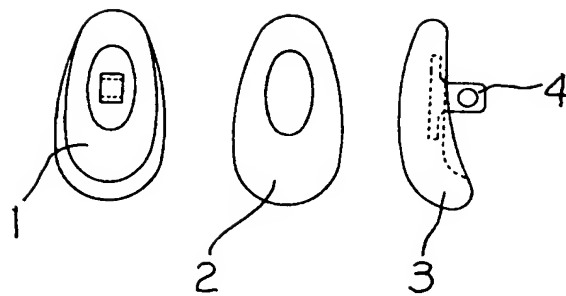
- 1 背面
- 2 当り面
- 3 下端部
- 4 止着部
- 5 鼻
- 6 鼻当てパット

【書類名】 図面

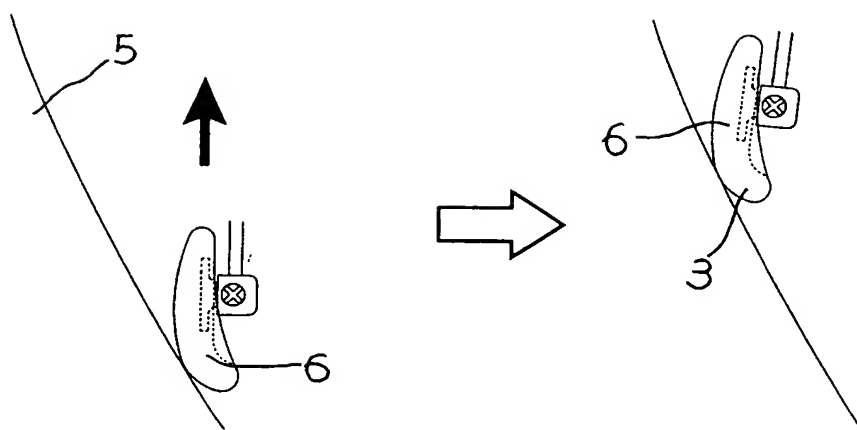
【図 1】



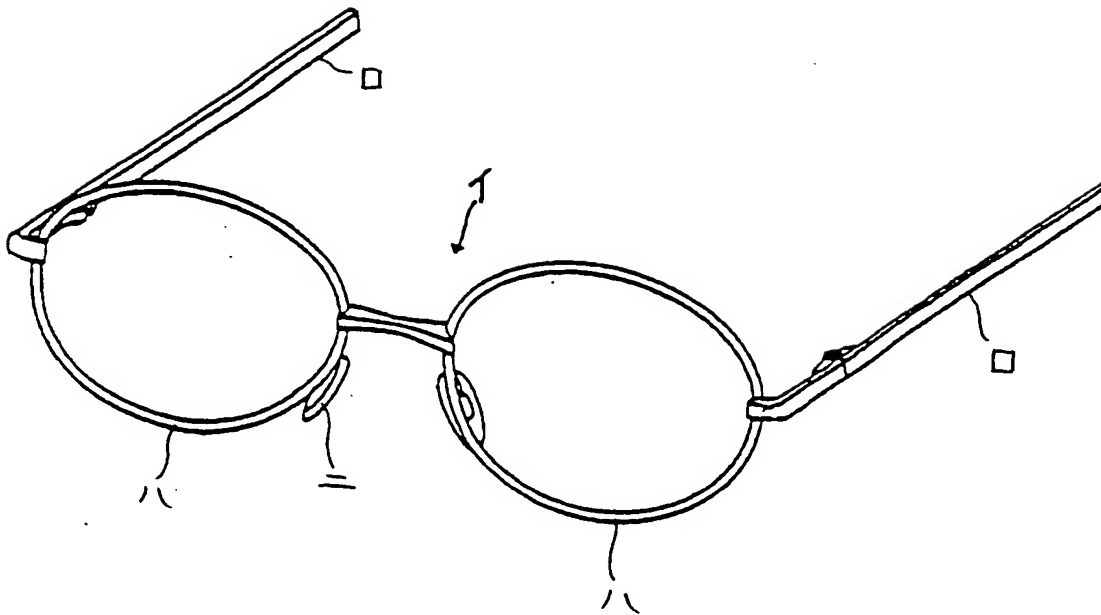
【図 2】



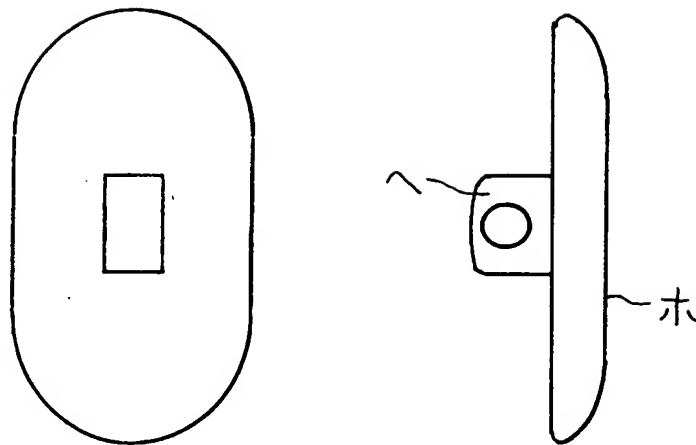
【図 3】



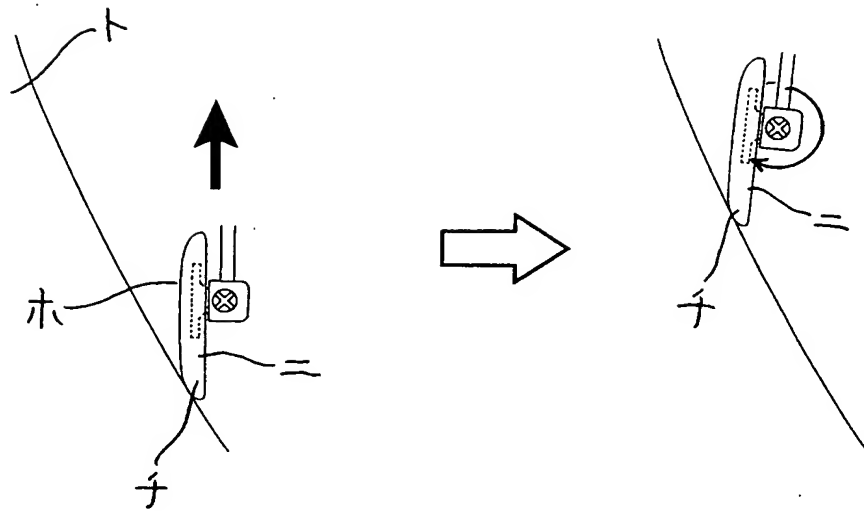
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 メガネのフロントフレームに取付けられてフロント部を支える為の鼻当てパットであって、鼻との接触面が大きくなって滑り難く、又滑り落ちたフロント部を持ち上げた場合にあっても角部が当って痛みを感じる事のない鼻当てパットの提供。

【解決手段】 鼻当てパット 6 の肉厚を大きくして背面 1 を凹状化し、そして下端部 3 を背面側へ反らせると共に下端部当り面 2 を滑らかな曲面にて湾曲させた形状としている。

【選択図】 図 2

特願 2 0 0 3 - 2 0 8 9 7 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [5 0 2 3 7 1 6 0 2]

1. 変更年月日 2 0 0 2 年 1 0 月 1 1 日

[変更理由] 新規登録

住 所 京都府京都市上京区樫木町通堀川東入西山崎町 2 2 2 番地

氏 名 イアラ・マーケティング・スペシャリティズ株式会社